



中販連 平成二十六年乳価交渉方針を決定

■全生乳換算で五円/kgを要求乳価に!!
 ■要求乳価に集送乳業者に及ぶ燃料高騰分を含む

平成二十六年年度の全国の生乳受託量(四月〜六月累計)は、前年同期比九十六・六%、北海道で同九十六・九%、都府県で同九十六・二%、中国地区

農林水産省、乳業者、酪農関係者からは、生乳生産基盤の脆弱化を懸念し、この解決手段を緊急課題とする発言が飛び交っています。



表紙写真

2014.7 撮影

- ▼表紙写真は、某大学学生主催の「ほいくまつり2014」を彩るオブジェ“お化け”をショットしたものです。
- ▼この祭り、某県民会館で開催され保育所園児などの入場があり、1,700人の会場はたちまち満席に埋め尽くされました。
- ▼今回で41回目を数えるそうで、新たな伝統が積み重ねられました。
- ▼このイベントにあたり約120名の学生達が、それぞれに舞台装飾、衣装、小道具、大道具、照明、音響、ナレーション等々を担当し、“おむすびころりん”の物語など滑稽な演出に拍手・喝采が送られる感動ものでした。
- ▼当日を迎えるまでの準備期間の約3カ月でシナリオ作成から演出稽古等々、総力を結集され見事に演出されました。
- ▼フィナーレでは、肩を抱き合い感涙の姿もみられ、企画から終演に至る様々な思いが詰まったものと感じました。
- ▼きっと表紙写真の“お化け”も、作成に携わった思いが込められたものと想います。
- ▼広酪も様々な事業を通じて、共感できる姿を想像し実現したいものです。



contents

- ② 特集 中販連 平成二十六年乳価交渉方針を決定
- ⑤ 会議だより
- ⑦ 地域コミュニティ
- ⑧ ちよつと気になる税務のはなし
- ⑨ ミルクパーラー
- ⑫ 酪農テレックス

年度の目標年間生乳受託量を三十万トンに復元す

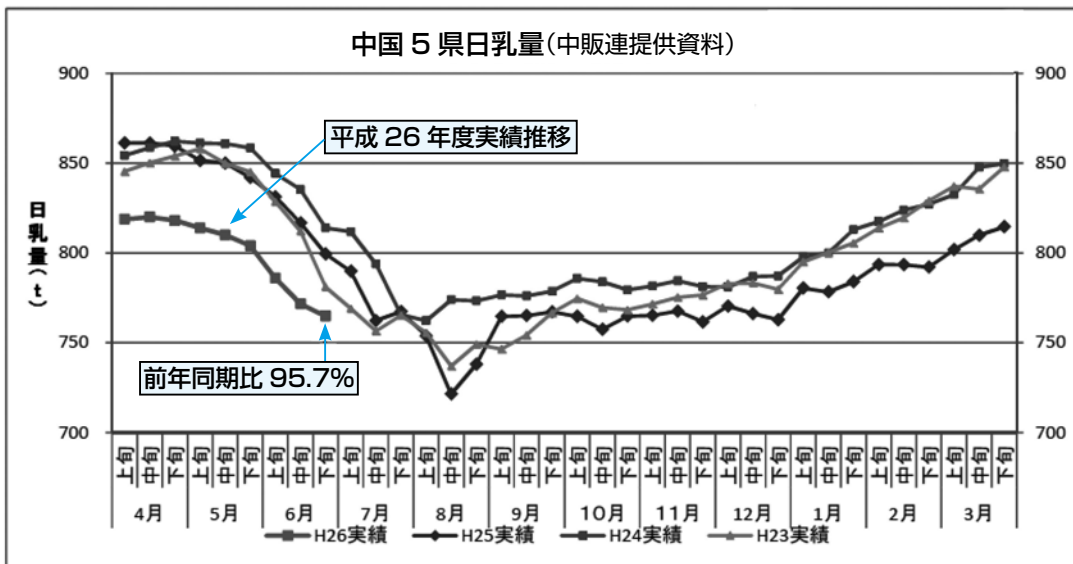
一、中販連の生乳生産
基盤復元目標と
ギャップ

中販連は、平成二十二年度の目標年間生乳受託量を三十万トンに復元す

広酪からも、この要求額決定の参考とするため、組合員から提示協力を戴きました平成二十四、二十五年分の青色申告データをもとに作成した資料を中販連に提示しました。

現行乳価、大手乳業者は、昨年十月一日からの一年間を期限として、飲用用途向け乳価五円/kgを担保するとの決定を受け今日に至っています。中国生乳販売農業協同組合連合会(以降「中販連」)では去る七月三日開催した生乳受託販売委員会、理事会での協議を経て、平成二十六年要求乳価として全生乳換算で五円/kgを決定し、乳業者との交渉を開始しました。

このことを「HOSTYプラン」に掲げたものの、生乳生産基盤を担う酪農家戸数の減少に並行して経産牛頭数も減り、今や二十九万トンの堅持すら厳しい状況で推移しています。



※広島県の実績には公共・員外実績を含む。

■広酪の生乳出荷戸数と生乳受託量の推移

年度	生乳出荷戸数	生乳受託数量	前年度対比	1戸当たりの年間平均生乳生産量	H6=100%対比
H6	398戸	71,372トン	100.0%	179.3トン	100.0%
H7	383戸	72,084トン	101.0%	188.2トン	105.0%
H8	360戸	73,654トン	102.2%	204.6トン	114.1%
H9	339戸	73,963トン	100.4%	218.2トン	121.7%
H10	319戸	72,655トン	98.2%	227.8トン	127.0%
H11	302戸	70,120トン	96.5%	232.2トン	129.5%
H12	286戸	69,916トン	99.7%	244.5トン	136.3%
H13	269戸	66,500トン	95.1%	247.2トン	137.9%
H14	257戸	65,125トン	97.9%	253.4トン	141.3%
H15	247戸	63,944トン	98.2%	258.9トン	144.4%
H16	234戸	61,796トン	96.6%	264.1トン	147.3%
H17	224戸	61,822トン	100.0%	276.0トン	153.9%
H18	211戸	63,162トン	102.2%	299.3トン	166.9%
H19	199戸	60,951トン	96.5%	306.3トン	170.8%
H20	187戸	59,674トン	97.9%	319.1トン	178.0%
H21	180戸	59,516トン	99.7%	330.6トン	184.4%
H22	173戸	56,901トン	95.6%	328.9トン	183.4%
H23	164戸	55,680トン	97.9%	339.5トン	189.3%
H24	158戸	53,830トン	96.7%	340.7トン	190.0%
H25	149戸	52,867トン	98.2%	354.8トン	197.9%

【左の表は、広酪発足以後の生乳出荷戸数と生乳受託量を表しています。】この間、厳しい計画生産に突入や飼料価格などの連続的高騰により生産コストが上昇する厳しい酪農経営環境に晒され続けました。この打開策として、

しかしながら、将来の生乳生産基盤の見直しは、酪農家戸数減少に歯止めがかからぬ実態もあり、何らかの策を講じる必要があります。

二、生乳生産基盤回復には何が求められるのでしょうか？
広酪は平成六年四月に発足し二十年が経過しましたが、生乳出荷戸数、生乳受託数量ともに右肩下がりでも推移し今日に至っています。

平成二十一年度には酪農政治連盟、中販連とその会員組織をあげての乳価値上げを求める運動と消費者に対する理解醸成活動、乳業者の理解によって、乳価十円/kg、平成二十四年度は飲用用途向け五円/kgと各々の値上げが実現しました。

要求乳価(値上げ額)…試算結果

ア) 飲用牛乳向け要求乳価 (単位: kg、円、円/kg)				
	A	B	C	上昇額
	H24年度	H25年度	H26年度	(Cの⑤-Aの⑤-Bの④)
①全算入生産費	843,485	893,332	898,147	3,340
②1頭当たり実乳量	8,292	8,292	8,292	全生乳換算
③kg当り生産費(①/②)	101.72	107.73	108.31	飲用化率 65%
④乳価値上げ反映額	—	1,625	1,625	全生乳 5.14円
⑤修正生産費(③-④)	101.72	106.11	106.69	換算 5.1

* 乳価値上げ反映額(④欄)は25年10~26年9月における乳価値上げ額の通年換算相当。

イ) 要求乳価内訳			
用途等	飲用牛乳用途	醗酵乳用途	(全用途)輸送費
値上げ要求乳価(円)	5.1	7.0	0.3
備考	用途比率 積算単価	20.00%	100.00%
	3.3(小数点第2位四捨五入)	1.4	0.3
全生乳換算(円)	5.0		

中販連が乳業者へ宛てた要請文

中国生乳販連第121号
平成26年 7月 4日

中国生乳販売農業協同組合連合会
代表理事会長 東山 基

取引乳業者各位

平成26年度生乳取引価格の改定について(要請)

謹啓、時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、当連合会との生乳取引につきましては格別のお引き立てを賜り衷心より厚くお礼申し上げます。

さて、酪農乳業界が抱える現下の最重要課題は生乳生産基盤の弱体化がもたらす生乳需給の逼迫への対応であり、都府県では飲用需要の最盛期を控え未曾有の需給ギャップの発生が懸念されております。他方、生乳生産の減少は乳製品の需給関係にも影響をもたらし国内在庫の減少に加え国際相場の上昇及び円安に起因する輸入価格の高騰が相俟って国内相場は続伸状態にあります。生乳生産基盤の低下は北海道を含む全指定生乳生産者団体に及ぶ現象であり、円安による生産コストの上昇等を背景とする経営窮状が廃業者を加速させ乳用牛頭数と生乳生産の減少が同時進行する危機的な事態をもたらしています。このため生乳生産の回復に当たっては乳用牛頭数の復元が不可避なことから酪農乳業界としては個体資源の確保への取り組みが必要とされ、資源確保促進策の一環として乳価問題は重要な位置づけとなります。

このような状況の中で、当連合会は去る7月3日に生乳受託販売委員会及び第3回理事会を開催し平成26年度の乳価問題に係る協議を行い、要求乳価の設定に当たっては、会員組織の協力による酪農経営実態に係るデータの反映及び集送乳事業の安定運営並びに前年度乳価決定経過等を考慮の結果、平成26年度取引乳価交渉に当たっては下記による改定の申し入れを決定致しました。

つきましては、生乳生産基盤の再構築を通じた安定取引を期するため当該用途における対応につきまして特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 要求価格(用途別値上げ額等 円/kg)
 - 飲用牛乳向け 5.1円
 - 醗酵乳等向け 7.0円
 - 生乳輸送費(全用途) 0.3円
- 適用時期 適用時期を含め上半期内の妥結を期する。
- 要求事項説明資料 後日改めて提示致します

顧みて、「酪農家戸数が何故減少したのか」を考えると、安心して経営を後継者に託して行ける乳価なり酪農情勢の見通し、つまりビジョンが描ききれないからと考えられます。

まず、酪農経営で生活安定を考えたとき、所得向上を支える取引乳価の引き上げが得策の一つであり、加えて、酪農経営者による弛まぬ経営努力も必要と考えます。

三、中販連の平成二十六年要求乳価決定

中販連では、酪農家の経営実態把握(税務申告書等)による数値、国により公表された平成二十四年度生乳生産費調査数値などをもとに経費実績を精査し、平成二十六年要求乳価が定められ、

今回の要求乳価5円/kgの内には、集送乳業者(運送業者)に及ぶ燃料高騰影響を鑑み、全用途に対する0.3円/kgが加味されているのは、今回の特徴と云えます。